

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年8月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101326
法人名	社会福祉法人 陽光会
事業所名	グループホーム すずらんハイツ
所在地	鹿児島市城西3丁目2-24 (電話)099-253-8181
自己評価作成日	平成29年7月3日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成29年8月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は平成15年12月に中央町に開設して運営してまいりましたが、平成28年10月1日に城西3丁目に移転してまいりました。以前と違いワンフロアになり、常に利用者様の顔や様子が見える施設です。施設の周囲も住宅街で静かな場所にあり、車椅子で散歩に出かけても車もあまり通らず、ご近所の庭の花を楽しんだり、近くの小学校や公園へも散歩に出かける機会が増えました。スーパーや薬局なども近くにありますので一緒に出かけて買いものを楽しんでおります。施設内も明るく、大きなテレビでカラオケを楽しむこともあります。お風呂は車椅子の方でも無理なく入浴できるように特浴となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当ホームは、市街地に位置し近隣には病院や学校、商業施設、スーパーなどの社会資源があり幹線道路から近いが、閑静な住宅街である。
- 母体は、医療機関であり協力医療機関となっているため24時間医療連携が図られており、利用者や家族の安心感に繋がっている。また、同法人のグループ施設も多く、相互に交流活動があり、災害時の連携を始めとして日常的に協力体制が構築されている。
- 平成28年10月に現住所に転居しているが、地域交流に積極的で自治会に加入し年2回家族交流会の際の杵つきの餅を近隣に配ったり、外出の機会を利用して近隣でショッピングを楽しんだりしている。年間を通じてボランティアや介護、看護の実習生を受け入れるなど社会貢献し、介護相談員からの情報をサービスに活かすなど柔軟に取り組んでいる。
- 管理者や職員の関係性は良好で、職場環境もよく離職率も低い。日々のケアや連絡ノートを活用し、ミーティングで利用者の状況を把握し利用者の思いに触れ寄り添う自然体のケアを実践している。法人は、職員の資格取得やスキルアップのための研修会などへの参加にも積極的に支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念はリビングに掲げ、常に職員が眼にして、自分自身を振り返り理念に基づいて介護が実践できるように心がけています。	理念は、同法人グループで共通したものであり、利用者に笑顔で接し、地域と関わりながら我が家のように過ごすことができることを目指している。理念は掲示され名札の裏に記載し常日頃から理念に沿ったサービスが提供できるよう職員全員で取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	常に買い物は近くの商店を利用し、町内会の参加、近隣住民と関わりを持つように努めている。小中高のボランティアや介護実習を受け入れる体制を整えている。	町内会に加入し、近隣のスーパーマーケットや郵便局、薬局などに散歩がてら出かけたり、ホームの行事である餅つきを実施した時は、隣近所に配り交流を図っている。また、サマーボランティアや介護実習生、介護相談員を受け入れている。職員は、町内会の行事（清掃活動など）にも協力支援を惜しまず積極的に関わっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	施設入所の相談や見学、認知症の相談等があれば、丁寧に対応している。近隣の方々にもグループホームを理解して頂けるように折に触れ説明するように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回、運営推進会議を行い、行事報告や問題点などを民生委員や長寿あんしん相談センター、ご家族に参加して頂きご意見を伺い、よりよい施設の向上に活かしている。	長寿あんしんセンター職員や民生委員の協力が得られており、毎回の案内には議題を記載して送付している。管理者は家族の参加が少ないと感じており、行事と組み合わせたり工夫はあるが、日時の調整をするなどして家族が参加しやすいよう検討している。また、町内会への働きかけをおこない、相互の交流を深めたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新手続きやオムツ申請など定期的に市の担当者を訪ねている。毎年、介護相談員を受け入れて利用者から話を聞いていただきサービスの向上に繋げるように努めている。	市担当者窓口に出向き、担当者と面談で相談や助言を頂いたり、電話では日常的にやりとりをして協力関係を築いている。グループホーム連絡協議会のメンバーとの交流もあり、意見交換をおこないサービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアを実践しており、身体拘束の具体的な行為なども研修を通して理解している。その上で安全を確保しながら自由な暮らしができるように支援している。	月2回スタッフミーティングを実施し、ヒヤリハット事例や事故事例を元に職員全員で原因や対応方法、再発防止に向けて検討し報告書を作成するという手法に変えた。法人全体の研修会もあり、言葉による拘束や言葉使いには特に注意し職務に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年必ず、虐待の防止について研修を行い、職員全員が虐待防止について理解している。施設内で虐待が行われないように十分に注意して防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修などで学ぶ機会を持ち、相談があれば管理者を中心に対応して必要な支援ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、解約、改定時は随時、説明を行い疑問点などの質問があればその都度、ご理解いただけるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や電話での家族からの意見や要望、利用者からの意見や要望は職員間で話し合い改善を行っている。また、第三者委員の名前や連絡先をリビングに掲示して利用者や家族が意見や要望を伝えられる体制をとり、それらの要望を施設運営に反映させるように努めている。</p>	<p>年2回家族交流会を開催、行事も同時開催するため家族の参加も多い。管理者や職員は、家族からの意見、要望などが出された時は、「連絡ノート」に記載して職員全員で情報を共有し、ミーティングで話し合い、サービスの見直しや質の向上に向けて取り組んでいる。職員は、普段から利用者や家族と信頼関係を築き遠慮なく意見が出せるようにしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月2回のミーティングを行い、管理者と職員は意見交換を行い又、職員は意見があれば随時管理者や他職員と話し合うなどし、施設長に出された意見や提案が施設運営に反映されるように働きかけている。</p>	<p>職員からは、直接意見、提案が管理者に出されることが多く、職員の関係性も良好で離職率も低い職場環境である。福利厚生もしっかりしており、公私ともに相談がしやすい。また、職員の資格取得にも理解があり資質向上、育成にも積極的に取り組んでいる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>施設長は職員の状況を把握して、時にはアドバイスをを行い各自がやりがいのある職場環境であるように努めている。又、資格取得や外部研修など積極的に進めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人で毎月、研修を行いケアの質を高められるように努めている。又、外部研修に参加できるように情報を伝え、研修の機会を確保できるように努めている。介護のアドバイスはその都度対応して育成に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会や地域交流会を通して同業者との交流や意見交換、研修を行い施設の質の向上に活かせるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>施設のサービス内容を説明し、不安や要望などがあれば聞くなどして、入居までに不安や要望に応え、安心して施設で生活できるように入居後も利用者の望んでいることに応えられるように努める。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の希望や不安などを聞き、質問などには丁寧に答えるようにし、入居までに家族の不安が軽減できるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービスが本人、家族にとって必要とする理由など質問には丁寧に答え、入居までに家族の不安が軽減できるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日常生活を共にし、利用者にできることは手伝って頂きながらお互いが支え合いながら生活する者同士である関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時、又は月1回の通信などで利用者の状況を共有し、一緒に利用者を支えている関係であるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が面会に来やすい施設作りに努めるなど、面会時は居心地の良い雰囲気作りを行い、行きつけの店や病院受診なども継続して利用できるように努める。	行きつけの美容院に行ったり、家族と趣味のネイルケアに行かれる方がある。また、月1回定期受診後外泊をされる方もある。また、地元の友人や知人の訪問があり、来訪時はゆっくりと過ごしていただけるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、リビングのテーブルの席を考え、利用者同士が交流を持てるように支援する。ソファなど利用者同士が会話を通して情報交換ができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は関係が途切れないように利用者、家族からの問い合わせや相談があれば丁寧に応じて支援できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向に沿って実行するように努めている。困難である場合は本人にその旨を伝え話し合い希望に近づけよう努めている。	思いを言葉にできない方などもおられしぐさや表情を読み取り、家族からの情報を参考にしてミーティングなどで話し合い一人ひとりの思いに触れ本人らしい暮らしの実現に向けて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者や家族、ケアマネや相談員などから情報を得て生活歴やサービス利用状況などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で利用者の性格、心身の状態等を把握し常に現状に合った生活ができているかチェックしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議で利用者、家族、介護職員、主治医と課題について話し合い、介護方針を決め介護計画を作成している。月に1回はモニタリングを行い介護計画が現状に即した介護計画になっているか検討している。	職員は、ミーティングで話し合い連絡ノートを活用し情報を共有している。モニタリングは毎月、計画の見直しは3ヶ月～6ヶ月ごとに実施され、柔軟に見直しをおこなうなど利用者や家族の思いや意向に沿った介護計画になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やケース記録、申し送りノートに日々の様子やケアの状況を記録し職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時の送迎や買い物など利用者の状況や希望を柔軟に対応して利用者の満足が得られるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会との関わりや繋がりが欠けることなく生活できるように警察、消防、民生委員、ボランティア、介護実習など受け入れて利用者が豊かな暮らしができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞き利用者、家族の希望するかかりつけ医で受診できるように支援している。かかりつけ医と施設は常に情報交換を行い、利用者が適切な治療を受けられるように支援している。	入所前のかかりつけ医を主治医とする方や協力医療機関だったり、本人や家族が希望する医療機関となっている。家族同行で定期受診される時は、情報提供書を作成し主治医と情報を共有するよう努めている。緊急時は、職員が対応し家族と密に連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の体調の変化時は主治医や看護師に報告、相談し指示や助言を受け適切な受診、看護を受けられるように努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時、利用者の情報提供を行い、入院中は定期的に訪問して利用者の不安軽減に努めている。又、病院関係者と情報交換を行い早期退院に繋げるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に対して指針を定めている。状況に応じて利用者や家族、主治医と十分に話し合い事業所でできる対応を理解して頂き家族や主治医と共にチームとして支えられるように取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合の指針があり、看護師とはオンコール体制が構築されているが、看取りについては体制がなく主治医、利用者、家族、関係機関に回り、今後の方向性について段階に応じて話し合っている。指針は、看取りを前提とした内容になっていることから、管理者は、今後、早い段階から利用者や家族の意思を段階的に確認できるよう文書化を検討している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを作成し、緊急時や事故発生時には臨機応変に対応できるようにしているが、主治医や看護師に指示を仰ぐこともある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練は年2回行い昼夜共に想定した訓練を行っている。災害訓練もマニュアルを作成し、訓練を行い避難体制など家族にも伝えている。</p>	<p>年1回ごと、消防署立会い、自主訓練、災害訓練を利用者、職員全員で実施している。民生委員の協力は得られているが、地域の協力体制を築いているとは言い難い。マニュアルが整備され自動通報装置、救急・防災グッズ、備蓄などが完備されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者、一人ひとりに合わせた対応や言葉かけを行うように努めている。着替えや排泄時はプライバシーを尊重できるように配慮した対応をしている。	利用者への呼びかけは、さんづけでこない、入室する際は必ずノックするよう徹底している。プライバシー確保のため、居室入口にカーテンを掛けようと検討している方がいる。毎年4月に「接遇マナー」の研修会を実施し年長者として敬い礼節を重んじケアするよう意識の統一を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者の望むことや興味のあることを話して下さる雰囲気作りを行い、利用者が選択できる場面を作るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や希望に添って個々に一日の流れを作れるように柔軟に対応している。趣味や外出の希望など利用者の意向を聞きながら決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着替えは季節に合ったその人らしい服装になるように配慮している。訪問理美容の方に定期的に来て頂き利用者の希望を聞きながら散髪を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか利用者と話し合いながら希望があればそれを作り同じテーブルで一緒に食べながら味付けなど感想を聞いている。嫌いな物なるべく他の物に変えて作り、美味しく食べて頂けるように工夫している。	献立は、その日の職員が作成し、食材の下ごしらえ、下膳など手伝いをされる方がいる。外食は、家族と一緒に楽しんでいる。行事食（おせち・誕生会・クリスマス会など）、家族交流会や花見には、手作り弁当、餅つきを家族と一緒に楽しむ機会があり、食を楽しむ習慣を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせてキザミ、粥など食事形態を変えて量も個別に対応している。食事摂取量や水分摂取量も毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや口腔ケアを声かけや見守りで行っており、磨き残しなど、チェックも行っている。訪問歯科に毎月来て頂き、気になる利用者はその都度、診察して頂き口腔ケアの指導などしていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行っており、排泄パターンに添ってトイレ誘導を行ったり、声かけを行ってトイレで排泄できるように支援している。	職員は、なるべくトイレで排泄できるよう支援しており、テープ式オムツの方は夜間帯に1人おられる程度で、大半の方が、リハビリパンツを使用、布の下着の方もおられる。イン・アウトを含めた排泄チェック表を活用し、尿意、便意などのサインを見逃すことがないようにトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、排便困難時は腹部マッサージや散歩、水分摂取、乳製品、内服など利用者にあった方法で対応して定期的に排泄があるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	日曜日以外は毎日、入浴できる体制を取っており週3回程度を基本としている。特浴もあり、車椅子の方も浴槽に入れるようになっている。一人で入浴できる方は外からの声かけのみで利用者本位の支援に努めている。	機械浴が設置してあり、利用者や職員の精神的負担が軽減されている。入浴を面倒がられる方もおられるが、タイミングを図り入浴していただくなど個々の思いを尊重したケアを実践している。また、入浴剤を工夫し楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人で歩かれる方は自由に居室へ行かれ、利用者の体調に合わせて休まれている。車椅子の方は昼食後など休まれる時間を作っている。日中、夜間共に居室の室温や明かりなどに配慮するように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のファイルがあり薬の効能や副作用、用量が確認できるようになっている。服薬は必ず、職員が確認して服用させ症状変化があれば主治医と相談するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前や入居後、お話の中で利用者や家族から好きな事や得意な事などの情報を得ており、日々の生活の中で活かせるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など外へ出かける機会を持てるように又、墓参りや病院受診、外食など家族と外出を楽しむ機会をもてるように支援に努めている。	日常は、近隣のスーパーマーケット、ドラッグストア、菓子屋などに個別の外出支援をしている。墓参りは、家族と一緒に出かけたり、花見は近隣の公園に職員と毎年出かけている。毎年度、事業計画をつくり、季節ごとの外出やイベントを実施し、四季折々の行事を体験したり、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として外出の活用をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の希望に応じてお金を持っていただき、買い物など自由に使えるように支援している。お金を所持していない方でも自分の買い物をするときはお預かりしているお金を渡して自分で支払いができるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や友人からの電話は取り次いでいる。利用者の希望があれば家族へ電話を掛けて話をしていただいている。届いた手紙は本人にわたし、書かれた手紙は出すように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>こまめに掃除を行い清潔を保っており、カーテンによる調光に心掛け室温にも十分配慮し、生活しやすい空間であるように常に気を配っている。玄関には手作りの人形を飾り季節感を楽しんでいる。</p>	<p>四季折々の12体の手作りの人形が玄関を彩っている。ちぎり絵、フランス刺繍の花など利用者の作品が展示されている。玄関を入るとすぐに食堂兼リビングで、対面式キッチンになっている。仏壇が設えてあり、朝晩お参りされる。食堂で制作活動をされる方、居室でゆっくりされる方があるなど思い思いに過ごしている家庭的な雰囲気の家である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>独りになりたいときや利用者同士でおしゃべりしたい時はソファがあり利用者が思い思いに過ごせるように配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使いやすい家具を備えており、過ごしやすいように配慮されている。小物や写真など利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。</p>	<p>ベット、洗面台、キャスター付キャビネットは備え付けである。位牌を持ち込んでおられる方がある。転倒予防のため、ベットではなく畳の上に布団を敷き、扉のノブ・鍵穴を保護し安全対策を取っている方の居室があり、その方が暮らしやすいよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内はバリアフリーになっており車椅子の方も居室やトイレ、浴室へ自由に入出りできるようになっている。又、ローカやトイレなどは手すりがついており安全に移動できるように配慮してある。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない